



茅の輪漕り



命が禊されたことに発する
といわれ、奈良時代には大
宝律令により正式な宮中の
年中行事とされた国家的
神事であり、太古より行わ
れている祓いの神事である。
現在では宮中・神宮を始め
全国の神社で行われている。
当日は早朝より協力会の
奉仕により、直径五メート
ルにも及ぶ濃緑の茅の輪が
奉製され、神門に備え付け
られた。

七月三十一日午後五時、神門前にて夏越しの大祓式、
続いて本殿で夏越祭が斎行された。
当社では七月三十一日、十二月三十一日の年二回「大
祓式」が行われているが、七月を災難消除・農作物の豊作
を祈る「夏越の大祓式」、十二月を一年の罪・穢れを祓い
清々しい気持ちで新年を迎えていただく「師走の大祓式」
と呼んでいる。この「大祓式」は、神話の時代に伊邪那岐

夏越の大祓式



夏越祭・豊栄舞奉奏



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく



守りたい環境がある。



育てたい才能がある。



届けたい楽しさがある。



支えたい人がいる。

安心をカタチに、生きがいデザインする麻生グループ

ASO GROUP
WE DELIVER THE BEST

<http://www.aso-group.jp/>

残暑御見舞い申し上げます



古来より、茅の輪を三度潜れば罪穢れ・災難を祓い暑気にも負けず、健やかな生活をおくる事が出来るといわれている。

定刻、全国から寄せられた「紅白の人形」を納めた唐櫃が、茅の輪の前に供えられ、高向宮司以下神職、巫女、多数の氏子崇敬者等が参列し大祓式を斎行。まず葦津権宮司が「大祓詞」を宣読、続いて参列者各人に配られた「切麻」で祓い、「祓物」に息吹を吹きかけて切り裂き、半年間の罪・穢れを祓い清めた。

と古歌を奉唱しながら三度茅の輪を潜り、本殿へと参進した。引き続き、本殿で夏越祭が斎行され、皇室・国家の繁栄、氏子崇敬者をはじめ、全国から人形を寄せられた皆様方の無病息災・家内安全を祈念する祝詞が奏上され、巫女による「豊栄舞」を奉奏し、祭典は滞り無く終了した。

本年は例年に増して暑さ厳しく、連日酷暑が続き、当日も三十度を有に超える暑さの中、参列者の列は太鼓橋を越えるまで続くほど、多くの方々に御参列頂いた。流れる汗を拭いながら参列されていたものの、神事を終えると清々しい表情が溢れていた。

宮司以下参列者全員で茅の輪を左に廻り
水無月の夏越の祓へする人は千歳の命延といふなり

次に茅の輪を右に廻り
思ふこと皆つきねとて麻の葉を切り切りても祓ひつるかな

さらに茅の輪を左に廻り
宮川の清き流れに禊せば
折れることの叶わぬはなし



ご奉仕頂いた協会の皆様



宗像大社御神酒醸造元
勝屋酒造合名会社

社長 山本 博次
福岡県宗像市赤間4丁目1-10
TEL(0940)32-3010 <http://www.katsuyashuzo.com>

地球に優しいひとときを…
Genkai Group

玄海グループ

〒811-3502 福岡県宗像市江口978-52
TEL 0940-62-0653 FAX 0940-62-1565
URL <http://www.genkai-g.co.jp>

(有)玄海環境サービス (宗像市・許可業)

- 一般廃棄物収集・運搬
- 浄化槽の維持管理

玄海クリーン(有) (宗像市・委託許可業)

- 一般・産業廃棄物収集・運搬・処理

残暑御見舞い申し上げます

中津宮・七夕祭齋行

一年に一度の逢瀬

晴天に恵まれた八月七日、大島中津宮で恒例の七夕祭が盛大に斎行され、灯籠の明りの中、夜半まで中津宮境内は大変な賑わいをみせた。この七夕祭に併せ今年も「元気な島づくり事業推進協議会」により「宗像大島七夕まつり」が催され、満点の星空の下、彦星と織姫の一年に一度「逢瀬」の一刻が演出された。

当日は早朝より沖・中両宮奉賛会、同敬神婦人部、元気な島づくり



七夕祭

事業推進協議会
他(島内各種団体)

の御奉仕により、渡船ターミナルから中津宮境内周辺にかけて笹竹が備え付けられ、島は七夕の雰囲気一色に彩られた。

夕刻になると島外からの参拝者も続々と参集し、七夕祭りのイベント会場となる港湾緑地公園は浴衣姿の老若男女で溢れ、華やかな賑わいをみせた。

まず午後六時から地元大島の小・中学生による合唱や演奏、また九月十四日に宗像ユリックスで公演が予定されている「ミュージカルむなかた三女記」のミニ公演、猿まわし等が催された。また日没になると大島小・中学生の奉仕により境内に据えられた竹灯に点灯し、境内は幻想的な雰囲気包まれた。今年も「愛の赤い糸プロジェクト」が行われ、中津宮七夕伝説が朗読される中、天ノ川を挟んで鎮座する「牽牛神社」と「織女神社」



七夕踊り



を結ぶように空中に通されたチューブに赤い発光液が流れ、赤い糸で結ばれると参拝者から歓声が上がった。午後七時五十分、「牽牛神社」「織女神社」の御前で、厳肅に七夕祭を斎行。齋主が年に一度仕え奉る逢瀬を言祝ぐ祝詞を奏上し、玉串を捧げた。又、祭典後には伝統の七夕踊りも奉納され、島を訪れた人も島民も皆で輪になり、神人和楽の一夜を共にした。

午後九時三〇分、大島港より臨時渡船が出され、島外の参拝者はそれに乗船し帰路についた。

中津宮七夕祭は鎌倉時代まで遡ることができ、以来島民によって伝承されてきた神事であり、各家庭や施設においても七夕飾りをして、次世代へと受け継がれている。



宗像建設協力会

事務局 〒811-3217 福津市中央6丁目2-28
TEL (0940)42-0323

株式会社 井上建設

〒八一-三二一七
福津市中央六丁目二二八
TEL 〇九四〇-四二〇三二三
FAX 〇九四〇-四二〇三二七
井上 重信

株式会社 桜井建設

〒八一-三二一七
福津市中央二丁目一九三二〇一
TEL 〇九四〇-四三七八九五
FAX 〇九四〇-四三二五二六
桜井 孝弘

株式会社 篠崎建設

〒八一-三二〇五
福津市内殿一〇二・九
TEL 〇九四〇-四二〇六一七
FAX 〇九四〇-四二〇六七五
篠崎 剛

株式会社 田畑建設

〒八一-三二一九
福津市西福岡三・一五・一〇
TEL 〇九四〇-四二〇五三三
FAX 〇九四〇-四二・五二八五
田畑 博規

株式会社 日新建設

〒八一-三四三一
宗像市四熊四丁目一三・六
TEL 〇九四〇-三六二二三一
FAX 〇九四〇-三六・四七九八
長尾 榮次

松本組建設 株式会社

〒八一-三二五〇
宗像市神湊一〇二〇
TEL 〇九四〇-六二〇〇一六
FAX 〇九四〇-六二〇〇一六
松本 真誠

残暑御見舞い申し上げます

第58回

中津宮七夕揮毫会

子供達約一八〇名が大島へ

去る七月二十六日、当大社中津宮の鎮座する筑前大島において恒例の中津宮七夕揮毫会が開催された。この日は県内各地より幼稚園児から中学生まで約一八〇名の子供達を参加者として大島に迎えた。

大島は、我が国における七夕伝説発祥の地と云われる由緒と書道教育振興を目的とし、昭和三十一年に第一回揮毫会が開催され、今年で



揮毫する児童たち

五十八回目を数える、宗像大社の中でも最も歴史ある神賑行事である。

当日は早朝激しい降雨が見られるも、開催予定時間には止み出し、暑さや和らぎ過ぎし易い天候に恵まれる中、開催地大島の子供達は勿論、県内外各地から多くの子供達とその保護者、関係者がフェリーにて続々来島し、揮毫会場である大島小・中学校の校舎へ移動、各教室の席上にて日々の練習の成果を

発揮しようと神経を集中させ、学年ごとに与えられた課題に懸命に挑んだ。清書時間三〇分という限られた時間内で書き終えた三枚の中から一枚を選出し、中津宮へと移動し作品を提出した。

正午過ぎ、全作品が提出されると、早速御神前に奉納し奉告祭を斎行、参加者の学業成就と健康を祈念する祝詞が奏上された。祭典後、直ちに福岡書道会の先生方によって厳正な審査が行なわれた。

その間、緊張から開放された子供達は神社前の砂浜にて、大島の方々のご協力で行われている恒例のサザエ拾いや海水浴を楽しみ、大島ならではの大自然を満喫した。

午後三時には審査も終わり、早速境内回廊に入選作品が展示され、続いて拝殿前にて表彰式が行われた。渡邊恵風審査員長の講評、次に渡邊福宜より入賞者に賞状とトロフィーが授与された。この表彰式をもって、本年の七夕揮毫会の日程を全て終え、参加者は受賞品を胸に喜々として神社をあとにした。



境内に展示された入選作品

終わりにこの揮毫会に際し、一方ならぬお世話を頂いた、大島小・中学校の先生方をはじめ多くの皆様に、紙面より厚く御礼申し上げます。



福岡県知事賞



宗像タクシー協会

〒811-3436 宗像市東郷1丁目5番2号
連絡先 TEL(0940)36-6555

新星交通有限公司(会長)
代表取締役 森 正彦
宗像市東郷一丁目五番二号
東郷営業所
TEL 〇九四〇・三六二一三八

みなとタクシー株式会社
代表取締役 浩
宗像市赤間駅前二丁目三番一四号
TEL 〇九四〇・三三一三三一

宗像西鉄タクシー株式会社
代表取締役 久家日佐夫
宗像市自由ヶ丘二七三
TEL 〇九四〇・三二四一三一

宗像グリーンタクシー有限公司
代表取締役 藤瀬 政敏
宗像市河東一〇六一
TEL 〇九四〇・三三三三〇三

宗像平和タクシー株式会社
代表取締役 塩川 浩一
福津市中央三丁目八一
TEL 〇九四〇・四二〇〇四〇

福栄タクシー有限公司
代表取締役 保井 享
福津市西福岡二丁目一〇・三
TEL 〇九四〇・四二〇三三七

宗像交通有限公司
代表取締役 塩川 浩一
福津市津屋崎七一九五
TEL 〇九四〇・五二〇〇一五

残暑御見舞い申し上げます



第58回 中津宮七夕揮毫会 各受賞者は下記の通り

福岡県知事賞	本松里佳子	小学3年	津屋崎小学校	宗像市議会議長賞	川端 隆 嗣	小学6年	津屋崎小学校
//	高田みのり	中学3年	津屋崎中学校	//	川端 麻 椰	中学3年	津屋崎中学校
福岡県議会議長賞	本松 尚子	小学6年	津屋崎小学校	福津市議会議長賞	石津 志乃	小学4年	津屋崎小学校
//	福山 朱 凜	中学1年	城山中学校	//	鶴 侑 希	中学2年	自由ヶ丘中学校
福岡県教育委員会賞	師岡 杏 奈	小学1年	那珂小学校	宗像市教育委員会賞	代田 賢 志	小学2年	赤間小学校
//	萱野 未 於	中学2年	城山中学校	//	城戸 美 穂	小学1年	福岡東中学校
宗像大社宮司賞	石津 奏 乃	小学4年	津屋崎小学校	福津市教育委員会賞	鬼東あかね	小学5年	赤間小学校
//	伊豆 昌 太	中学1年	城山中学校	//	師岡 千 夏	小学1年	那珂中学校
宗 像 市 長 賞	松尾龍之介	小学2年	赤間小学校	宗像観光協会賞	橋爪 優 咲	小学3年	板付小学校
//	門田 理 美	中学3年	自由ヶ丘中学校	//	八波和希子	中学3年	福岡東中学校
福 津 市 長 賞	江藤菜津美	小学5年	舞の里小学校	福津市観光協会賞	橋爪 実 花	小学1年	板付小学校
//	花田 翔 平	中学2年	津屋崎中学校	//	大島 久 美	中学2年	中村女子中学校

柗石賞9名、福岡書道会賞9名、尚文堂賞9名、ヒロカネ賞15名、金賞39名



玄海ホテル旅館組合

玄海国定公園の中心
—風光明輝、生魚料理、宗像大社となり—

亀の井ホテル ☎ (0940) 38-3301

みなと荘 ☎ (0940) 62-2255

松 風 荘 ☎ (0940) 62-0120

高 嘉 旅 館 ☎ (0940) 62-1221

国民宿舎ひびき ☎ (0940) 62-1288

玄海ロイヤルホテル ☎ (0940) 62-4111

玄 海 旅 館 ☎ (0940) 62-0001

御宿はなわらび ☎ (0940) 62-0107

魚 屋 別 館 ☎ (0940) 62-3355

魚 屋 本 店 ☎ (0940) 62-2122

残暑御見舞い申し上げます

宗像護国神社 戦没者慰霊祭・田島千灯明

八月十五日午後七時、日清日露戦争より大東亜戦争までに戦没された宗像郡内二千五百余柱の英霊を祭る宗像護国神社にて、戦没者慰霊祭・田島千灯明が斎行された。

当日は好天に恵まれ、境内参道の両端には提燈・蠟燭により、明りが灯され、千灯明の荘厳な雰囲気の中、当大社神職四名の奉仕、宗像・福津両市の遺族会、田島区関係者参列のもと、英霊の御霊を慰めた。祭典終了には宗像市消防団第十一分団が警備に当り、田島区育成会による花火が行われ、子供たちの楽しげな声が響いた。

戦後六十八年が経過し、遺族の方々の高齢化が進み、当時を知る人も少なくなってきた。英霊が我が国の礎となられた事を風化させてはならない。今一度、国と国民に尽くされた英霊たちの精神を学ばなければならない。



宗像大社氏子青年会 全国氏子青年協議会・三重大会に出席

我が国挙げての一大事業である第六十二回神宮式年遷宮。その中でも最大の重儀である十月の遷御の儀を間近に控えた伊勢の地、皇學館大学に於いて、全国氏子青年協議会創立五十周年記念大会・第五十一回定期大会三重大会が、八月十日盛大に開催された。

当大社氏子青年会は、今年度より全国氏子青年協議会に加盟、それに伴い同大会出席の為、嶺俊光会長以下役員五名は神宮のお膝元、皇學館大学に出席。十四日より定期総会、引き続き同大学記念講堂にて、神宮鷹司尚武大宮司、神社本庁田中恆清総長他のご臨席を仰ぎ、全国氏子青年協議会員約千名出席のもと、創立五十周年記念・第五十一回定期大会が開会され、式にてこの度の全国氏子青年協議会新加盟にあたり、同協議会鷹野尚志会長より嶺会長へ認

証書が授与された。午後五時、一同聖寿万歳を行い、大会は盛大裡に終了した。翌十一日、当大社氏子青年会員は内宮・外宮・二見興玉神社を参拝、又お白石持行事・遷宮記念館を見学し帰路についた。今年、結成八年目を迎える宗像大社氏子青年会も、今回の全国氏子青年協議会加盟にあたり、活動の幅を広げ、一層の神明奉仕と全国氏子青年との交流を深め、本会発展の為微力ながら力を尽くす所存にて当会会員一同決意を新たにしました。



創業嘉永三年(1850年)
伝統に支えられた宗像神漬の味。

ナカマル醤油醸造元
宗像市神湊1118
TEL 0940-62-0003 FAX 0940-62-0353

昭和15年頃のナカマル醤油本店

城山家具
暮らしの夢を大きくひらく

宗像市三郎丸(旧国道3号線・三郎丸バス停前)
☎0940-33-5538(代表) FAX 0940-33-6351
http://www.shiroyamakagu.jp

SHIROYAMA

の専門
上田清商店

〒811-3304
福岡県福津市津屋崎4丁目16-6
Tel 0940-52-0148 Fax 0940-52-5488

宗像農業協同組合

本店 代表理事組合長 伊規須 国光
宗像市東郷4丁目3番1号 TEL 0940-36-4110

田島支店 支店長 洪田 力
宗像市深田 61-2 TEL 0940-62-1515

宗像大社御神酒
合資会社 **伊豆本店**

代表者 伊豆善也
福岡県宗像市武丸1060
TEL 0940-32-3001 FAX 0940-33-0512

印刷のことなら何でもお尋ねください

中川印刷
福津市津屋崎4丁目11-27
電話 0940-52-0044
FAX 0940-52-0414

残暑御見舞い申し上げます

作家 百田尚樹氏参拝

去る七月二十六日、「日本の次世代リーダー養成塾」の特別講師として宗像を訪れた、作家の百田尚樹氏が当大社を参拝された。

同氏は午後一時半に当大社に着、直ぐに祈願殿待合所で展示している「日章丸三世」の船鐘や出光タンカーの模型などをご覧いただいた。この「日章丸」は、出光興産創業者の出光佐三氏(以下、店主)をモデルにした同氏の著書で、今年本屋大賞を受賞した「海賊とよばれた男」のなかで登場する。



グローバルアリーナでの講義

その後、本殿・第二宮・第三宮を参拝、さらに神宝館も拝観され、宗像

大社の由緒をはじめ、店主と当大社の縁についても熱心に耳を傾けられていた。約一時間と短い滞在であったが、初めて当大社を参拝された同氏は、店主が深い崇敬の念を寄せた当大社に思いを馳せている様子であった。

当大社を後にした百田氏は赤間にある店主の生家などを視察され、会場のグローバルアリーナに移動、第十回目となる「日本の次世代養成塾」で国内外より参加した一七〇名の高校生と市民約二〇〇名を前に講義を行った。

講義では同著のモデルとなった店



日章丸三世の船鐘 (於祈願殿)

主の人物像を紹介し、「今の豊かな日本があるのは、心血注いで働き戦後復興を成し遂げた大正世代がいたからこそである。大正の気概に倣おう」と呼び掛け、またこの本には店主の生き

方を知ること、東日本大震災復興への励みにして欲しいというメッセージが込められていることなども語られていた。

長年放送作家としてバラエティ番組の構成を手掛けてきたこともあってか、終始笑いの絶えない、人を引付ける非常に楽しい講義となり、定刻を過ぎ惜しむように終了した。

同氏の代表作である「永遠の0」は映画化され今年十二月に放映が決定している。今後益々のご活躍をお祈り致しております。



出光興産創業者出光佐三の壮絶な生涯を描いた『海賊とよばれた男』上・下 (百田尚樹・著/講談社)

宗像・玄海の観光物産品卸

花田食品株式会社

代表取締役 花田 洋

宗像市田熊6丁目3番27号 TEL 0940-36-5533

出光興産株式会社販売店
東京海上日動火災保険(株)代理店

吉井商事株式会社

代表取締役 吉井 英海

本社 宗像市深田67-7
TEL 0940-62-0004 FAX 0940-62-3343

創業大正七年 鮮魚・海産物

おやま

福岡県宗像市神湊1141
TEL 0940-62-0006(代)
FAX 0940-62-2143

株式会社 おかやま

岡山 稔彦

福岡県宗像市神湊1000
TEL 0940-62-0134
FAX 0940-62-2914

遠藤クリーニング

代表 柴村 勲

〒811-3501 宗像市神湊635
Tel 0940-62-0217

食料品・青果・たばこ

田中商店

福岡県宗像市神湊1052
TEL・FAX 0940-62-0122

残暑御見舞い申し上げます



時満ちて道ひらく

愈々始まる

平成ノ大造営

平成ノ大造営 趣意書

天皇の祖先神、天照大神の御子神である田心姫神、湍津姫神、市杵島姫神の宗像三女神は、天照大神の神勅により宗像の地に降臨され、皇室国家の守護神として、沖津宮・中津宮・辺津宮に祀られております。その創建の歴史は、「日本書紀」神代の巻にもあることから、宗像大社は全国八万の神社の中でも、有数の古社とされています。さらにその御神徳は、あらゆる道を司る神「道主貴」としても広く崇敬され、宗像大神は全国六千余社に祀られております。

沖津宮が鎮座する沖ノ島においては、大和朝廷による国家祭祀の斎場ともされ、そこからは戦後の三次に亘る発掘調査により、八万点に及ぶ各時代の超一級品の神宝類が出土し、それらは全て国宝に指定されております。中には、ペルシャからシルクロードを渡って伝わったものもあることから、沖ノ島は「海の正倉院」とも称され、この地がいかに重要なところであったかが、古代祭祀の痕跡から立証されております。

昭和十七年に結成された宗像大社復興期成会においては、このような宗像大社の歴史を明らかにするため、二十四年の年月を費やして『宗像神社史』を編纂、昭和四十六年には大規模な境内整備「昭和の大造営」がなされ、宗像大社に新たな息吹が吹き込まれることとなりました。しかしその後、四十年余りの歳月が経過したため、本殿及び拝殿をはじめとする各諸施設に傷みが見受けられるようになり、修理修復の必要性が生じてまいりました。

平成ノ復興期成会においては、かかる境内整備を執り進めることよって、皇室国家の守護神である宗像大神の御神威の発揚に努めてまいり所存であります。各位におかれましては、趣旨御理解の上、格別の御協賛を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十五年

宗像大社平成ノ復興期成会

会長 出光 昭介

副会長

常任理事

理事

監事

参与

松尾 新吾

長尾 亜夫

出光 豊

麻生 泰

田中 浩二

清水 晃

谷 正明

伊東信一郎

清水 正敏

安部 照生

寺島 俊基

倉元 亮兒

河辺 絃

養父 守

安永 冷允

福田 伸孝

置鮎玄二郎

瀧口 幸男

松井 善徳

沖西 敏明

山本 清

城野 寅夫

瀧口 和彦

安部 實

小島 正弘

河辺 邦明

事業内容

一、概要

■第一次(平成25年7月～平成26年3月)

辺津宮本殿及び拝殿保存修理、防災施設工事、他

(辺津宮本殿及び拝殿工事期間)

○仮殿遷座祭 平成25年8月30日

○本・拝殿保存修理 平成25年9月～平成26年12月

○防災施設工事 平成25年10月～平成26年12月

○本殿遷座祭 平成26年12月予定

※平成25年9月～平成26年12月の

期間、本殿・拝殿工事につき、

参拝は本殿右側に建設の仮本殿

での参拝となります。

■第二次(平成28年～平成30年)

沖津宮、第二・第三宮、他諸社殿

■第三次(平成31年～平成33年)

沖津宮・中津宮・辺津宮諸施設

二、事業期間

平成25年～平成33年

(三ヶ年を1期とし、

三次に分けて実施)

三、総事業費

19億円



総社・辺津宮(宗像大社)



沖津宮・沖ノ島



中津宮・大島

募金要項

一、奉賛金は神社の社頭等でお願ひしてい

ますが、金融機関を御利用される際は、

二千元よりお願い申し上げます。

尚、御奉賛額に応じて記念品を授与し

ております。

二、奉賛申込先

「ゆうちょ銀行」

○加入者名 宗像大社平成ノ復興期成会

○口座番号 017901173183

奉賛者待遇

御芳名は奉賛名簿に記載し、修復を

終えた御本殿にお納め致します。



福かき(熊手)
福み、縁起物全般
初詣、十日戎祭用品
製造卸

えびすしまだ(株)

〒669-1211
宝塚市大原野字北宮本11番地
TEL 0797-91-0044 FAX 0797-91-1330



【授与品と装束】



京都奉製株式会社

本社営業所 京都市左京区静海市市原町1291-25
電話 (075) 741-3221

フリーダイヤル 0120-164124

福岡営業所 福岡市博多区板付5-3-11
電話 (092) 592-3015

残暑御見舞い申し上げます

五十年の歴史を刻んだ旧玄海小学校閉校

去る七月二十日(土)、五十年の歴史を刻んだ旧玄海小学校校舎お別れの式(閉校式)が、多くの卒業生等が集うなか催され、当大社より高向宮司も出席、同校にも通った葦津禰宜と神職一名が出向し、体育館に祭壇が設けられ、閉校・解体の清祓の神事が執り行われた。神事を終えると閉校式が行われ、それぞれ思い馳せながら校歌を皆で合唱



し、校舎に最後の別れを告げた。玄海小学校は、昭和三十九年に当大社が鎮座する田島地区と海岸沿いの神湊地区の二つの小学校の統合によって誕生。同四十一年に、今回、解体されることとなった校舎が新設された。しかし、近年、各所に老朽化が見受けられることから、玄海中学校(江口区)横に新校舎が建設され、今年、平成二十五年度に移校し、約五十年の歴史に幕を閉じた。



と玄海小学校竣工祭に当大社神職が奉仕した時の様子が記されている。

お別れの式(閉校式)は地元住民・卒業生・PTAなどの要望によって行われ、夕刻には「玄海夏まつり2013」題した催しも行われ、屋台が出店され、ダンスをする等、多くの人が集まり、最後の別れを惜しんでいた。

神門扉菊花紋調製奉仕奉告祭

七月二十九日、去る七月四日の皇太子殿下御参拝にあたり、当大社神門扉にある菊花紋の調製をご奉仕頂いた、(有)箱崎塗装工業所代



表取締役金山秀行氏と御子息を当大社にお招きし、この度のご奉仕に感謝奉告する、神門扉菊花紋調製奉仕奉告祭を本殿にて斎行した。

実は、昭和五十八年五月、皇太子同妃両殿下御参拝(現・今上陛下、皇后陛下)の際にも同社に、菊花紋調製の御奉仕をして頂いた経緯があり、今回もご相談したところ、二十年以上前の事で代替わりしていたにもかかわらず快諾して頂いた。

親子二代に亘る、高度な技術を駆使し真心込めた御用達により、新しく調製された美しく輝く菊花紋の神門で、皇太子殿下の御参拝を迎えることが出来た。

この至誠のご奉仕に対して深甚なる感謝の意を表して、調製奉仕奉告祭を行い、祭典終了後には高向宮司より感謝状、記念品を贈呈した。日本の伝統技術を今に伝える箱崎塗装工業所様の今後益々の御発展を御祈り申し上げます。

宗像の漁家と農家の手作りの味道の駅むなかたレストラン



おふろ食堂
はまゆう

TEL (0940) 62-2821

店休日

毎月第4月曜・盆・年末年始

営業時間

午前11時～午後4時

オーダーストップ 午後3時半

折尾名物 かしわめし弁当

株式会社
東筑軒

北九州市八幡西区堀川町4-1

TEL (093) 601-2345

(受付時間 年中無休 8:00～17:00)

FAX (093) 601-2570

ホームページ

<http://www.tochikuken.co.jp/>

残暑御見舞い申し上げます



宗像・糟屋の絵馬に描かれた日本海軍の軍艦を紹介している。本誌でも度々紹介したが、日露戦争の日本海海戦の装甲巡洋艦出雲の名が新聞を賑わしている。

八月八日付の朝日新聞にこんな記事があった。「新・海自艦「いずも」「中韓刺激」という見出である。八月六日に進水した海上自衛隊のヘリ

(続)



281



いしいただし

コプター搭載艦「いずも」の艦名が気に入らないというのである。中国国防省は「中国を侵略した際に使用した旧日本海軍の艦艇と同じ名前」と批判している。この自衛艦は全長二四八m、基準排水量約一九、五〇〇トンで、広い甲板で五機のヘリが同時に離着陸できる。

中国各紙は「准空母が進水した」と写真付きで紹介「F35B戦闘機(垂直離着機)も搭載すれば強力な攻撃能力を備える。」国営の中国中央テレビは「二ヶ月の改造で通常の航空母艦として運用できる」とそして同テレビは「日清戦争で清国から得た賠償金を原資に建造した旧日本海軍の装甲巡洋艦「出雲」と同じ名だ」としている。

中国は近年おかしい(歴史を紐解くと大国主義で強引な外交を繰り返してきた。)日本古来の領土尖閣群島には海域に艦船を派遣して領海侵犯を繰り返しているし、周辺の国々にも圧力をかけている。

国際的ルールを無視し不合理なことを平然と押しつけて来る。靖国参拝でも日本人の心の問題でありながら干

渉をつづける。お隣韓国は中国に急接近して日本外交に干渉してくる。自衛艦の進水に「広島原爆投下六八周年の日・空母級護衛艦進水式」と悪意にみちた見出しをつけて報じた。

日本領竹島には軍を派遣して監視哨をつくり、前大統領は勝手に建てた碑文の前でポーズをとり、韓国民に竹島ツアーを行って上陸をさせている。慰安婦問題でも日本大使館前に慰安婦の銅像をたてたり、アメリカでも同様のことを行っている。日本政府は中韓に対して毅然たる態度を望みたい。

さて今回の絵馬の軍艦は先に記した福津市金刀比羅神社(福津市在自)に奉納されている軍艦絵馬である。軍艦は日露戦役に備えた装甲巡洋艦常磐(ときわ)である。艦名を常盤と記したものが常磐が正しい。絵馬は「奉納、軍艦常盤」とあり、右側に奉納海軍式等機関兵費、脇野玉次郎の名がある。

絵馬の艦は全体白く塗られ、二本煙突、二本マスト。後尾のマストに海軍旗がひるがえり、白い艦は明るい感じがする。明治中頃まで、日本海軍の艦艇は白色に塗られていたという。海軍の十六本の旭光は明治二十二年制定され将兵の間で好評であった。つづく。

宗像大社 秋季大祭

(田島放生会)のご案内

当大社最大の神事、秋季大祭を右記日程で斎行致します。皆様の御参拝を心よりお待ちしております。



お問い合わせ先 宗像大社 社務所(0940)62-1311(代)

宗像大社秋季大祭(田島放生会)日程

10月1日(火)	みあれ祭 (海上神幸)	9:30	大島港出港
		10:30	神湊港入港
10月2日(水)	一日祭 (入御祭)	12:00	於=辺津宮 本殿 主基地方風俗舞 奉奏
	流鏝馬神事	8:00	於=神門前 参道
10月3日(木)	二日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 翁舞 奉奏
	三日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 浦安舞 奉奏
	高宮秋季大祭 第二宮・第三宮 秋季大祭 宗像護国神社 秋季大祭		三日祭終了後引き続き、 各社に分かれ同時斎行 (11:40頃を予定)
	献茶祭	14:00	於=辺津宮 本殿
	高宮神奈備祭	18:00	於=辺津宮 高宮祭場 悠久舞 奉奏

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メロ



バンコク

梅雨空けの神宝館に畏くも二代続けて迎える皇太子
皇太子様を迎える誇らしさが出ている。二代は作者と
子とも読めるので要注意。

福津市

若木台

山崎 公俊

みどり濃き真名井の森にしづまれる中津ノ宮は鳥居のみ見す
しっかりと描写で景が目に見える。三句(〜りて)とし、調べをゆるやかに。

宗像市

土 穴

山本 静子

梅雨さらばみどりさやぎて大空のまっしろき雲文月まひる
梅雨明けの清々しさを大きな景で詠んだ歌。(雲まっしろ)と四句切れに。

北九州市

八幡西区

豊田 光子

母も在り亡夫も居たる凌霄花咲く七月がわが生れ月
回想の中の誕生日か。二句(夫も居たり)と二句切れに。

うきは市

浮羽町

向 則正

空梅雨の茹る暑さに耐へてゐし去年の水害避難想ふ
水害の苦い記憶。四句・結句(避難所想ふ去年水害の)としては。

北九州市

戸畑区

田中ハツセ

ペンギンの歩みやよな吾の足つかまりて行く障子しめむと
二句に工夫があるが、字足らずが惜しい。二・三句(歩
みのやうなわが足や)。

宗像市

日の里

大和美由紀

金ごまの間引きしながら聞いてをり笛の音響くプール開きを
季節感のある歌、金ごまが良い。下の句を入れ替え
(プール開きの笛の響くを)。

福津市

中 央

池浦千鶴子

紫陽花を仏間も居間にも押し置くに好みて植えし姑はいまさず
お姑さんの人柄が分かるようだ。二・三句(仏間に居間に押し置く)に。

福津市

星ヶ丘

佐々木和彦

薬桜の下に入りたるあゆみにはまつはりてくる涼気のありぬ
皮膚感覚の鋭敏な作者。二・三句(〜影に入りたるわが足に)。

宗像市

田 久

巻桔梗

ゲーム、スマホ、楽しきメディア生るる世をちさき社にゆきはりは錆ぶ
外で遊ぶ子供が少ないのを寂しく思う作者か。ゆきはりはブランコ。

宗像市

池 田

森 龍子

三日三晩梅の世話する土用干し母の手仕事そっくり真似て
作者の中に生きる母。二・三句(梅の世話をす土用干しの)と二句切れに。

福津市

若木台

野間 精一

素裸の幼子にホースで水浴びせをり向ひの家の若き母親
観察の鋭い作者。虐待とも読めるので母親が遊ばせていると分かると良い。

宗像市

田 久

井上 光

聞くことの少なくなりし熊蟬の声に老いゆく耳澄ましたり
最近クマゼミの声を町でよく聞く。四句を蟬の声の描写にすることも試しては。

福岡市

南 区

井田有久衣

小学の一年のとき学びいし賛美歌にふと思はずハミング
懐かしい気分。(気のつけはハミングしをり小学校一年で習いし讚美歌の節)。

福津市

手 光

城戸みどり

蟬達の井戸端会議四重奏手もがれしか公園の木々
比喩が面白いが、重なるので三句以降を(賑々し刈りこまれたる公園の木に)。

◆選者詠

旅立てるあさはしづかに身支度す不安きさせる猫の目さけて
仏蘭西と書けばフランス遠くなる石畳ゆく馬車の音して

第五九八回

俳句作品集

宗像市 日の里 石松 弘次

風鈴や恋人を呼ぶ如く鳴る

宗像市 多 禮 早川 祥三

形式の茅輪につなぐ三世代

宗像市 武 丸 白土 凌一

蟬時雨暑さしのがなかき水

宗像市 日の里 花田いつ枝

ハンカチを振れば応へて両手振る

編集後記

誌面の通り、作家の百田尚樹氏が参拝されました。直接お話しを伺う機会はありませんでしたが、講演を拝聴し、長年放送作家として1カメ、2カメなどカメラ移りを意識した執筆によって、氏の情景が浮かんでくるような作品が生まれていたことが分かりました。▼郷里に帰省させて頂き、七日に一人で参拝りに…、すると顔の知ったおじいさんに会い、そのことを九十歳になる祖母に伝えると今日日は七日盆なめかぼん、盆始めの日で盆の仕度をする日だからお墓の掃除に行つたんだらう…と返答が。「おばあちゃんの知恵袋ではないですが、いろんなことを教わつたな」と、感慨深い気持ちになると同時に郷愁の念にかられました。▼百田氏の戦時中零戦乗りを描いた「永遠の0」を読み、また十五日、戦没者慰霊祭の写真撮影に行き、次に帰省した時は、祖母から記録に残らない実体験を聞かなければと思いましたが、戦後六十八年、今ある平和がどのようなものの上に成り立っているか考えさせられた夏でした。(鈴)

発行所 宗像大社事務所・宗像会

住所 〒811-1350 五

福岡県宗像市田島三三三三

電話 (0940)621-3311(代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚宗延・鈴木祥裕

制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円